

科目名 (英)	キャリアデザイン講座Ⅲ (就職講座含む) Career EducationⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	久保 早和子
		授業形態	講義	有			
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	歯科衛生士として幅広い分野での臨床経験を有し、特に訪問診療にて摂食・嚥下指導を中心に高齢者施設や、在宅医療に携わってきた専任教員が教育経験を活かしてキャリアデザイン講座の授業を行う。						
目的	歯科診療室の環境整備に対しての考え方や方法をグループワークを通して学び、卒業後、歯科衛生士としての職場に生かす能力を養う。さまざまな歯科医院の取り組みを知り、自分にふさわしい就職先を選択することにより、自己のキャリア設計を構築する。卒業後、すぐに離職しない就職先を決めるための知識や情報を身につける。国家試験対策のために早期内定を実現できるようになる。						
科目概要	社会人として、医療従事者として、身につけておくべき礼儀作法、言葉遣い、良好な人間関係を構築できるよう情操を豊かにする基礎を理解を深める。さまざまな歯科医院の取り組みを知り、自分にふさわしい就職先を選択することにより、自己のキャリア設計を構築する。						
到達目標	歯科業界の現状、それぞれの歯科医院の取り組みや情報を把握する。 基本的な就職活動の方法を知る。 見学する際チェックするポイントを理解する。 社会で活躍していくにあたり、社会人・医療従事者としての心得、礼儀作法や社会常識、さらに教養を身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	就職活動サポートブック			事前事後 学習と その内容	医療人として幅広い教養を持ち、感性豊かな人間性、人間性への深い洞察力、社会ルールについての理解、論理的思考力、コミュニケーション能力、自己問題提起能力や自己問題解決能力などを見つける。		
参考図書	就職求人誌・求人サイト・就職スマホキャンパス						
特記事項	【プリント(補助教材)】随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	キャリアセンターの紹介	講義	歯科業界について 就職活動サポートブックの説明 求職登録カードの記入
2	専門基礎テスト	講義	医療専門学校生としての基礎学力を判定する。
3	求人票の見方	講義	求人票の項目を理解する。 求人票を理解し見学先を決定する。
4	実習教育	講義	実習を通して医療人としての意識を高める。
5	歯科医院の取り組みを知る	講義	歯科医院を見学する際のチェックするポイントを理解する。 見学の課題について
6	大学病院の業務内容	講義	大学病院の業務内容を理解する。
7	Ⅳ期臨床実習振り返り	講義	振り返りと共にⅤ期臨床実習の目標設定する。
8	相互実習振り返り	講義	相互実習の学びを臨床実習にどのように生かすか考える。
9	歯科医院の採用説明	講義	歯科医院による採用説明 先輩歯科衛生士の体験談 業界からのアドバイス
10	歯科医院の採用説明	講義	歯科医院による採用説明 先輩歯科衛生士の体験談 業界からのアドバイス
11	歯科医院の採用説明	講義	歯科医院による採用説明 先輩歯科衛生士の体験談 業界からのアドバイス
12	決起会	講義	国試に向けて意識を高め現状を理解する。
13	歯科医院の採用説明	講義	歯科医院による採用説明 先輩歯科衛生士の体験談 業界からのアドバイス
14	最後の授業	講義	卒業に向けての流れを知る。
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	社会福祉論 Social Welfare Theory	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	尾崎 哲則/網干 博文 寺嶋 利子/本橋 佳子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な社会福祉を講義する。 尾崎 哲則: 日本歯科医療管理学会理事・日本大学歯学部客員教授。 網干 博文: 日本大学歯学部特任教授。 寺嶋 利子・本橋 佳子: 日本大学歯学部非常勤講師。						
目的	将来、歯科衛生士としての活動に必要な社会福祉についての概要を理解するとともに、高齢者の総合保障制度に関わる知識を習得することを目的とする。						
科目概要	歯科衛生士が地域での社会的擁護が必要な人々を対象に業務を行う上で関連する福祉関係法令等や現場の状況の理解を深める。多くの科目と関連を持っているが、根幹を理解できれば、さほど難しいものではない。必要に応じてプリントを配布する。						
到達目標	社会保障制度、特に社会保険制度について概説できる。児童福祉のあり方について説明できる。 各種福祉を概説できる。高齢者の医療・介護・福祉について概説できる。 地域包括ケアと地域包括支援センターについて概説できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	社会福祉 保健・医療・福祉の制度 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	社会保障制度と社会福祉	講義	福祉制度と社会保障制度の関連を理解する。 社会福祉制度のあり方について概説できる。 福祉事務所及び3福祉士について概説できる。
2	児童家庭福祉	講義	児童家庭福祉の概念について説明できる。児童福祉法の持つ理念と事業について説明できる。母子及び寡婦福祉法について概説できる。保育園・児童養護施設・児童館について説明できる。児童相談所及び児童虐待防止法について概説できる。
3	障害者福祉と障害者総合支援法	講義	国際生活機能分類(ICF)を説明できる。 障害者基本法をはじめ障害者福祉に関する法律を概説できる。 各種障害について概説できる。 障害者総合支援法について概説できる。
4	高齢者と社会保障1 医療サービスの提供	講義	高齢者に対する医療サービスの提供を横断的に理解する。 在宅診療・訪問診療、後期高齢者医療制度、居宅療養管理指導を概説できる。
5	高齢者と社会保障2 介護サービスの提供	講義	高齢者に対する介護サービスの提供を横断的に理解する。 介護保険法と介護施設の関係について概説できる。 介護保険における施設サービスについて概説できる。
6	地域医療と福祉 地域包括ケアサービス	講義	地域包括ケアについて説明ができる。 医療福祉における地域連携について概説ができる。 地域包括支援センターの位置づけ・あり方について説明できる。
7	わが国が今日抱える社会福祉的な問題	講義	わが国の現状から、少子超高齢社会が背負う社会福祉的な問題について総合的に考える。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	衛生行政・社会福祉 Administration・Social Welfare Health	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	尾崎 哲則/網干 博文 寺嶋 利子/本橋 佳子
		授業形態	講義	有			
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な衛生行政・社会福祉を講義する。 尾崎 哲則: 日本歯科医療管理学会理事長・日本大学歯学部客員教授。 網干 博文: 日本大学歯学部特任教授。 寺嶋 利子・本橋 佳子: 日本大学歯学部非常勤講師。						
目的	将来、歯科衛生士として必要な医療保健制度の概要を理解するとともに、歯科衛生士に関わる法的な知識を習得することを目的とする。						
科目概要	歯科衛生士が業務を行う上で関連する法律・制度等を、法令の方向から学んでいく。 公衆衛生学会、口腔衛生学会、歯科医療管理学会等の認定資格を持った歯科医師教員が経験を踏まえて授業を行なう。						
到達目標	社会保障制度、特に社会保険制度について概説できる。公的医療保険制度を説明することができる。 法体系を説明できる。福祉・介護制度を概説できる。 歯科衛生士法と業務について説明できる。歯科医師・歯科技工士の業務及び他の医療職種について概説できる。 医療法について概説できる。衛生行政及び関連法規について概要を説明することができる。国民医療費について概説できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	衛生行政・社会福祉 保健・医療・福祉の制度 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生士法	講義	歯科衛生士の業務を述べるができる。 歯科衛生士の欠格事由を挙げることができる。 歯科衛生士としての届出等について概説できる。
2	衛生行政・法体系	講義	衛生行政・社会福祉という教科の概要を知る。 我が国の法律体系について説明ができる。
3	歯科医師法・歯科技工士法	講義	歯科医師法および歯科技工士法について理解する。
4	医療関係職種	講義	歯科以外の医療関係者についての関連法規を知る。 歯科以外の医療職種の法的な業務について理解する。
5	医療法	講義	医療法の基本的な事項について概説できる。
6	社会保障と公的扶助	講義	我が国における社会保障制度の概要について理解する。 公的扶助という制度について理解する。
7	社会保険制度	講義	我が国の社会保険制度について概説できる。 年金保険制度・雇用保険制度・労働者災害補償保険制度について理解する。
8	歯科衛生士法	講義	歯科衛生士法について説明できる。 歯科衛生士の業務について説明できる。
9	歯科医師法・歯科技工士法	講義	歯科医師法および歯科技工士法について理解する。
10	医療関係職種	講義	歯科以外の医療関係者についての関連法規を知る。 歯科以外の医療職種の法的な業務について理解する。
11	医療法	講義	医療法の基本的な事項について概説できる。
12	衛生行政	講義	我が国の衛生行政の仕組みと関連法規について概説できる。
13	歯科衛生士関連業務法	講義	歯科衛生士業務と関連のある健康増進・薬事・食品関連の法規について理解する。
14	医療の動向・国民医療費	講義	我が国における医療の動向について理解する。 歯科診療医療費の国民医療費での位置づけについて概説できる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	臨地実習Ⅳ Clinical PracticeⅣ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	各臨地実習先指導者教員
		授業形態	臨地実習		有		
		時間数	270	授業回数	-	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	6			曜日/時間	月・火・水・金・土/基本16:00～20:00
講師紹介	【各臨地実習先指導者教員】 歯科衛生に関し相当の経験を有する歯科医師又は歯科衛生士とし、そのうち少なくとも一人は免許を受けた後4年以上業務に従事し、十分な指導能力を有する者である。						
目的	以下を理解し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	臨地実習に臨む為の心構え・気構え・心構えと実践力を身につけ、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	①実習の集大成として三大業務を実践し、基礎力を身につける。 ②指導者の指示のもと、自ら考えて行動出来るようになる						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート			事前事後 学習と その内容	実習前に必ず臨床実習指導要綱を確認しておく。 また、臨床実習開始前に目標設定(各期、毎日)し、実習に臨むこと。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【プリント(補助教材)】随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療所実習 歯科診療所	臨地実習	歯科医療現場で、歯科衛生士業務を理解し実践する。
2	歯科大学病院実習 昭和大学歯科病院 鶴見大学歯学部付属病院	臨地実習	歯科病院における臨床実習で各科の歯科衛生士業務に必要な事柄を理解し、実際の診療に参加および見学することにより知識、態度、技術を身につける。
3	保健所実習 保健所・保健センター	臨地実習	公衆衛生の現場にて、歯科支援を学ぶ。
4	保育所・幼稚園実習 保育所・幼稚園	臨地実習	幼児に対する口腔衛生指導を実施する。
5	小学校実習 小学校	臨地実習	児童に対する口腔衛生指導を実施する。
6	高齢者施設実習 特別養護老人ホーム	臨地実習	高齢者に対する口腔ケアおよび口腔衛生指導等の対応を学ぶ。
7	障がい者施設実習 心身障がい者 口腔保健センター	臨地実習	障がい者・障がい児に対して歯科支援の場における対応を学ぶ。
8	地域保健実習 品川区 大田区 川崎市	臨地実習	公衆衛生の現場で健康教育等の実践をする。

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座 基礎 I Basic Comprehensive Studies for Dental Hygienists I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	三鶯 雅子
		授業形態	講義	有			
学科・コース	歯科衛生士科 II 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士、新東京歯科衛生士学校副校長、昭和大学歯学部口腔外科学講座兼任講師、日本口腔外科学会認定専門医、日本抗加齢医学会所属						
目的	3年間の歯科衛生士養成カリキュラムにおいて学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる専門基礎分野、専門分野について総まとめの講義を行い、多職種連携を行うために歯科衛生士に求められる専門知識を習得できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。 模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	解剖学概論 細胞の基本構造	講義	【解剖学】 解剖学の種類、人体の構成と区分、解剖学用語、体の方向用語について理解する。 細胞の中にある基本的構造(細胞内小器官)と機能、ならびに細胞分裂について理解する。
2	組織の分類 個体発生	講義	【解剖学】 身体を構成する組織の種類とその機能を理解する。精子と卵子の発生、染色体、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育について理解する。
3	骨と筋 脈管	講義	【解剖学】 体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。脈管系の基本的な構造と機能、全身の血管系の名称を理解する。
4	消化器系	講義	【口腔解剖学】 口腔の役割と位置を理解する。顔面における口部の存在意義を考える。
5	口腔前提 固有口腔	講義	【口腔解剖学】 各部位と区分の口腔機能を考え理解する。 口蓋と舌の働きについて考える。
6	唾液腺	講義	【口腔解剖学】 唾液腺の種類、存在部位、各唾液腺液(唾液)の性状を理解する。各唾液腺の唾液放出部を確認する。口峽と咽頭の構造を理解し、咀嚼・嚥下の機序について考える。
7	頭蓋骨 下顎骨	講義	【口腔解剖学】 各部位や構造を確認し理解する。
8	地域保健・公衆衛生(まとめ)	講義	地域保健の主な対象、法令、関係行政機関、主な活動を列挙することができる。 ヘルスプロモーション、ノーマライゼーションについて説明することができる。 健康増進法、歯科口腔保健推進法、その他保健福祉関連法について記述することができる。
9	母子保健(まとめ)	講義	1歳6か月児健康診査と3歳児健康診査の違いを列記することができる。 1歳6か月児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査の内容、事後保健指導について具体的に述べるができる。
10	学校保健(まとめ)	講義	学校保健の対象を列挙することができる。学校歯科健康診断の内容について、診断票の記載など具体的に述べるができる。
11	成人保健	講義	生活習慣病の特性を述べるができる。 成人保健に関わる行政組織、関係法規を記述することができる。 成人保健事業の実態を列挙することができる。
12	産業保健(まとめ)	講義	産業保健に関わる行政組織、関係法規を述べるができる。 職業性歯科疾患について列挙することができる。
13	老人(高齢者)保健	講義	わが国の人口構成、疾病構造を理解することができる。 要介護高齢者対策と介護予防事業のシステムを説明することができる。
14	国際保健	講義	国際協力の仕組みを述べるができる。国際協力の実施期間を列挙することができる。 歯科疾患の国際的な状況を説明できる。国際的な口腔保健目標を具体的に述べるができる。
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座 基礎Ⅱ Basic Comprehensive Studies for Dental Hygienists II	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	古平 衣美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会 MFT学会 臨床心理カウンセラー						
目的	3年間の歯科衛生士養成カリキュラムにおいて学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる専門基礎分野、専門分野について総まとめの講義を行い、多職種連携を行うために歯科衛生士に求められる専門知識を習得できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。 模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書		事前事後 学習と その内容		事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	感染の成り立ちと発病 微生物の種類・感染症の種類 免疫の概要	講義	【微生物学】 感染と免疫の関係について理解する。
2	微生物の分類 細菌の一般的な構造 病原微生物	講義	【微生物学】原核生物と真核生物という分類と概念を理解する。細菌の構造とグラム染色との関係について理解する。グラム陽性球菌:黄色ブドウ球菌、レンサ球菌、グラム陽性桿菌:芽胞形成細菌、グラム陰性球菌:髄膜炎菌と淋菌、特殊な細菌について理解する。
3	口腔常在微生物 化学療法 院内感染対策	講義	【解剖学】 体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。脈管系の基本的な構造と機能、全身の血管系の名称を理解する。
4	病理学序論・遺伝性疾患と奇形 循環障害 代謝障害と退行性病変 増殖と修復	講義	【病理学】 正常な細胞、組織と病気の原因について理解する。循環系の機能、病態を理解する。 退行性病変と進行性病変の病理学的経過を理解する。
5	炎症 免疫とアレルギー 腫瘍・呼吸器系疾患	講義	【病理学】 炎症性疾患(特に歯周炎)について理解する。免疫学や疾患が起こりやすい生体の生理について理解する。腫瘍の種類、性状について理解する。
6	歯の発育異常・口腔領域の奇形 歯の付着物および沈着物・エナメル質う蝕 象牙質う蝕および歯髄・歯周組織の病変	講義	【口腔病理学】 歯の機械的および化学的損傷 形態的、大きさ、数、位置、咬合に関した異常を理解する。 象牙質、セメント質、歯髄、歯根膜の病的変化について理解する。
7	口腔粘膜の病変、全身疾患と口腔粘膜病変との関連や前癌病変、口腔領域の嚢胞、腫瘍、口腔癌、顎骨の病変、唾液腺の病変、	講義	【口腔病理学】 各病態、特徴的所見を理解する。嚢胞と腫瘍の区別が理解できる。 病態の進行と加齢の影響を見分ける。
8	歯科診療補助論(まとめ)	講義	各診療科における診療補助の共同動作を総合的な理解をする。
9	歯科診療補助論(まとめ)	講義	各診療科における診療補助の共同動作を総合的な理解をする。
10	歯科予防処置論(まとめ)	講義	歯および口腔の疾患を的確に予防するために、専門的な知識、技能、態度を習得する。
11	歯科予防処置論(まとめ)	講義	歯および口腔の疾患を的確に予防するために、専門的な知識、技能、態度を習得する。
12	歯科保健指導論(まとめ)	講義	保健指導・保健教育の基礎知識と技術を習得する。
13	歯科保健指導論(まとめ)	講義	保健指導・保健教育の基礎知識と技術を習得する。
14	主要三教科まとめ	講義	総合的な知識を習得する。
15	定期試験		筆記試験

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座 I Comprehensive Studies for Dental Hygienists I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	三嵩 雅子
		授業形態	講義	有			
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士、新東京歯科衛生士学校副校長、昭和大学歯学部口腔外科学講座兼任講師、日本口腔外科学会認定専門医、日本抗加齢医学会所属						
目的	臨床科目に必要な基礎的知識を養い国家試験対策に役立てる。歯科疾患を理解し、問診、診査、診断、治療計画、治療法の選択、治療に必要な器材など治療の目的や意義、治療の一連の流れを理解する。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。 模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	各臨床医学科目の基礎的知識を理解し説明できる。歯科疾患の病因や病態、経過、治療法を説明できる。(国家試験に出題される知識の定着) 国家試験対策に活用できる資料作りが出来る						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	臨床科目教科書			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	摂食嚥下リハビリテーションの理解①	講義	グループワークで摂食嚥下について教科書の内容を理解する。
2	摂食嚥下リハビリテーションの理解②	講義	グループワークで嚥下モデルを踏まえて、適切な嚥下訓練法のまとめ資料を作成する。
3	摂食嚥下リハビリテーションの理解③	講義	【解剖学】 体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。脈管系の基本的な構造と機能、全身の血管系の名称を理解する。
4	歯内治療学の理解①	講義	2人1組で国家試験問題に取り組み必要な知識を深く理解する。
5	歯内治療学の理解②	講義	答え合わせと解答解説
6	歯科補綴学の理解①	講義	2人1組で国家試験問題に取り組み必要な知識を深く理解する。答え合わせと解答解説
7	歯科補綴学の理解②	講義	答え合わせと解答解説
8	口腔外科学の理解①	講義	2人1組で国家試験問題に取り組み必要な知識を深く理解する。
9	口腔外科学の理解②	講義	答え合わせと解答解説
10	小児歯科学の理解①	講義	2人1組で国家試験問題に取り組み必要な知識を深く理解する。
11	小児歯科学の理解②	講義	答え合わせと解答解説
12	歯周治療学の理解①	講義	2人1組で国家試験問題に取り組み必要な知識を深く理解する。
13	歯周治療学の理解②	講義	答え合わせと解答解説
14	総まとめ	講義	科目を越えて知識の理解を深める。
15	定期テスト		筆記試験

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座Ⅱ Comprehensive Studies for Dental HygienistsⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	古平 衣美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会 MFT学会 臨床心理カウンセラー						
目的	3年間の歯科衛生士養成カリキュラムにおいて学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる専門基礎分野、専門分野について総まとめの講義を行い、多職種連携を行うために歯科衛生士に求められる専門知識を習得できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。 模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書		事前事後 学習と その内容				
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	なし						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	感染の成り立ちと発病、微生物の種類 感染症の種類、免疫の概要	講義	【微生物学】 感染と免疫の関係について理解する。				
2	微生物の分類 細菌の一般的な構造 病原微生物	講義	【微生物学】原核生物と真核生物という分類と概念を理解する。細菌の構造とグラム染色との関係について理解する。グラム陽性球菌:黄色ブドウ球菌、レンサ球菌、グラム陽性桿菌:芽胞形成細菌、グラム陰性球菌:髄膜炎菌と淋菌、特殊な細菌について理解する。				
3	口腔常在微生物 化学療法 院内感染対策	講義	【解剖学】 体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。脈管系の基本的な構造と機能、全身の血管系の名称を理解する。				
4	病理学序論・遺伝性疾患と奇形 循環障害 代謝障害と退行性病変 増殖と修復	講義	【病理学】 正常な細胞、組織と病気の原因について理解する。循環系の機能、病態を理解する。 退行性病変と進行性病変の病理学的経過を理解する。				
5	炎症 免疫とアレルギー 腫瘍・呼吸器系疾患	講義	【病理学】 炎症性疾患(特に歯周炎)について理解する。 免疫学や疾患が起こりやすい生体の生理について理解する。				
6	歯の発育異常・口腔領域の奇形 歯の付着物および沈着物・エナメル質う蝕 象牙質う蝕および歯髄の病変	講義	【口腔病理学】 歯の機械的および化学的損傷 形態的、大きさ、数、位置、咬合に関した異常を理解する。 象牙質、セメント質、歯髄、歯根膜の病的変化について理解する。				
7	口腔粘膜の病変、全身疾患と口腔粘膜病変との関連や前癌病変、口腔領域の嚢胞、腫瘍、口腔癌、顎骨の病変、唾液腺の病変	講義	【口腔病理学】 各病態、特徴的所見を理解する。嚢胞と腫瘍の区別が理解できる。 病態の進行と加齢の影響を見分ける。				
8	歯科診療補助論(まとめ)	講義	各診療科における診療補助の共同動作を総合的な理解をする。				
9	歯科診療補助論(まとめ)	講義	各診療科における診療補助の共同動作を総合的な理解をする。				
10	歯科予防処置論(まとめ)	講義	歯および口腔の疾患を的確に予防するために、専門的な知識、技能、態度を習得する。				
11	歯科予防処置論(まとめ)	講義	歯および口腔の疾患を的確に予防するために、専門的な知識、技能、態度を習得する。				
12	歯科保健指導論(まとめ)	講義	保健指導・保健教育の基礎知識と技術を習得する。				
13	歯科保健指導論(まとめ)	講義	保健指導・保健教育の基礎知識と技術を習得する。				
14	主要三教科まとめ	講義	総合的な知識を習得する。				
15	定期テスト		筆記試験				

科目名 (英)	臨地実習Ⅴ Clinical PracticeⅤ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	各臨地実習先指導者教員
		授業形態	臨地実習		有		
		時間数	315	授業回数	-	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	7			曜日/時間	月・火・水・金・土/基本16:00~20:00
講師紹介	【各臨地実習先指導者教員】 歯科衛生に関し相当の経験を有する歯科医師又は歯科衛生士とし、そのうち少なくとも一人は免許を受けた後4年以上業務に従事し、十分な指導能力を有する者である。						
目的	以下を理解し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	臨地実習に臨む為の心構え・気構え・心構えと実践力を身につけ、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	①各症例に合わせたアシスタントワークが出来るようになる。 ②指導者の指示のもと、安全に配慮した歯石除去、歯面研磨、う蝕予防処置が出来るようになる。 ③各症例に適した患者指導が出来るようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート			事前事後 学習と その内容	実習前に必ず臨床実習指導要綱を確認しておく。 また、臨床実習開始前に目標設定(各期、毎日)し、実習に臨むこと。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【プリント(補助教材)】随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療所実習 歯科診療所	臨地実習	歯科医療現場で、歯科衛生士業務を理解し実践する。
2	歯科大学病院実習 昭和大学歯科病院 鶴見大学歯学部付属病院	臨地実習	歯科病院における臨床実習で各科の歯科衛生士業務に必要な事柄を理解し、実際の診療に参加および見学することにより知識、態度、技術を身につける。
3	保健所実習 保健所・保健センター	臨地実習	公衆衛生の現場にて、歯科支援を学ぶ。
4	保育所・幼稚園実習 保育所・幼稚園	臨地実習	幼児に対する口腔衛生指導を実施する。
5	小学校実習 小学校	臨地実習	児童に対する口腔衛生指導を実施する。
6	高齢者施設実習 特別養護老人ホーム	臨地実習	高齢者に対する口腔ケアおよび口腔衛生指導等の対応を学ぶ。
7	障がい者施設実習 心身障害者 口腔保健センター	臨地実習	障がい者・障がい児に対して歯科支援の場における対応を学ぶ。
8	地域保健実習 品川区、大田区、川崎市	臨地実習	公衆衛生の現場で健康教育等の実践をする。